表題(14pt)

－副題－(10.5pt)

キーワード：(9pt)

※実践報告の場合

◯発表者名　共同研究者名(9pt)

所属施設名(9pt)

【はじめに】

・その看護実践の必要性

（社会の状況と絡ませて）

・その看護実践の創意・工夫点について

【目的】

その看護実践の目的

※必要時、用語の定義を入れる

【実践内容】

・実践モデルの提示

・実施プロセスの明示

・実施モデルに沿った評価するための

指標

・分析方法

【倫理的配慮】

（例）A病院倫理委員会の承認を得て行った。対象者には、研究の趣旨、参加は自由意思であること、途中辞退も可能であること、参加の同意が得られない場合や途中辞退による不利益はないことを説明した。データは研究成果を公表したのちに破棄し、研究成果は個人が特定されないように処理をして学会などで公表すること説明した。全てを口頭と文書で説明した後に研究参加の同意を自筆で得た。本研究に関連して開示すべき利益相反関係にある企業等はない。

※本研究を考慮した倫理的配慮を加える。

※参加の同意は必ずしも自筆によらなくてもよい。例えば、アンケートならば同意欄を作成し、チェックがあれば、同意したものとみなすなど。

【実践結果】

・参加者の特徴

・プロセスの指標の結果と実施しての

困難や対応方法

【考察】

・実施モデルの評価

・実施モデルの改善案の提示

【結論】

注意点：結果で記述していない内容を考察で述べることはできない

引用文献

1）福島花子,郡山太郎,本町一子,他：看護の○○○研究,第○回日本看護学会論文集（看護管理）,p.5-8,2008.

・記載方法は集録原稿作成要領を必ず確認する

・参考文献の記載は必要ない

※福島県各支部の学会・研究会で発表された演題には以下の文を入れる。

本研究は、第〇回○○支部看護研究会で発表されたものである。